

性同一性障害 診療充実へ 学会が認定医、5年で50人育成めざす

生まれつきの体の性と、心の性が一致しない「性同一性障害(GID)」。法的に性別を変更するには、体を心の性に合わせる適合手術が必要だが、国内で実施している医療機関はわずかしかなく、適切な診療ができる医師も十分でない。学会は、認定医を公表し、患者が安心して受診できる体制を整えていくという。

手術後、戸籍も変更

東京都内の女性(55)は2014年、戸籍上の性別をこれまでの男性から変更し、体の性に違和感があり、20歳で上京した後は女性として生きてきたが、「自分の体を見るのが嫌だ」という。

性別適合手術を受けたこの手術を手がけている百沢明特准教授(形成外科)がいたため。

手術までの手続きは、日本精神神経学会のガイドラインに沿って進められた。本精神神経学会のガイドラインでは、性同一性障害の診断には体

の性と心の性が一致していないことの確認が必要で、この女性の場合は、泌尿器科医が体の性を、精神科医が心の性を確かめた。心の性は朝、1日が始まるのが楽しい」と話す。

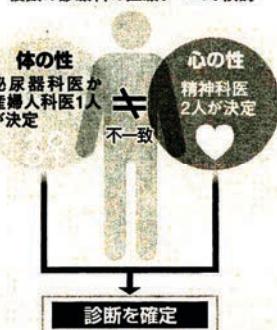
戸籍上の性別変更是、03年に成立した法律で可能になった。法務省の統計によると、これまでに5千人以上が認められている。

日本精神神経学会の推計によると、医療機関を受診した性同一性障害の人は国内で少なくとも約1万人に満たないという。患者が集中して手術までに時間がかかるところだから、タイなど海外で手術を受けた人が相次いでいる。たゞ、漫然と使い続ける

GID学会理事長の中塚幹也・岡山大教授(産婦人科)によると、国内では10カ所に満たないという。患者が集中して手術までに時間がかかるところだから、タイなど海外で手術を受けた人が相次いでいる。たゞ、漫然と使い続ける

会は、診療経験20年以上の条件を満たした医師を選ばない」と話す。認定医とする制度を創設。今年3月、認定医9人を公表した。5年間で50人の認定医を育てる」とを目指す。http://www.gid-soc.org

性同一性障害の診断 複数の診療科の医療チームで検討



主な治療	対象年齢	公的医療保険
精神的なサポート	なし	○
二次性徴抑制療法	二次性徴の開始以降	×
ホルモン療法	原則18歳以上 (条件により15歳以上)	×
性別適合手術	20歳以上	×

日本精神神経学会のガイドライン、GID学会への取材をもとに作製

しかし、性別変更に必要な適合手術は、公的医療保険が使えない。費用は全額自己負担で、この女性は138万円かかりました。百沢准教授は「法律で手術を求めているのに、高額な医療費負担が強いられるのはおかしい」と訴える。

医療費のほかに、手術を受けられる医療機関が少ない問題もある。

GID学会理事長の中塚幹也・岡山大教授(産婦人科)によると、国内では10カ所に満たないという。患者が集中して手術までに時間がかかるところだから、タイなど海外で手術を受けた人が相次いでいる。たゞ、漫然と使い続ける

会は、診療経験20年以上の条件を満たした医師を選ばない」と話す。認定医とする制度を創設。今年3月、認定医9人を公表した。5年間で50人の認定医を育てる」とを目指す。http://www.gid-soc.org

思春期の治療大切

日本精神神経学会の推計によると、医療機関を受診した性同一性障害の人は国内で少なくとも約1万人に戻せるメリットがある。

思春期には体つきが変わつていく二次性徴が起き、体の性への違和感が強くなることが多く、この時期に心の性に体を近づけるホルモン療法に進むかどうかを重要な点だ。不登校や引きこもりのほか、自分の体を傷つけたり、自殺を企てたりするケースもあり、聞き取りや共感などの精神的サポートだけでは限界がある

学年のガイドラインで、強い苦痛がある場合は、二次性徴を抑える薬を使うことを認めている。11～12